

星 摩美 准教授
博士(学術)

Mami Hoshi

✉ mami.hoshi@komatsu-u.ac.jp

研究
Keyword

ビリーフ、地域日本語教育

プロフィール

2017年 金沢大学大学院 人間社会研究科 博士後期課程 修了
 1992年 国際交流基金 日本語教育派遣専門家(マレーシア、インドネシア)
 2007年 De La Salle University Department of International Studies 非常勤講師
 2008年 Institute of Teacher Education International Languages Campus(マレーシア教育省国際言語教員養成所) 講師
 2012年 福井大学 グローバル人材育成研究センター日本語教育部(元留学生センター) 非常勤講師
 2013年 金沢大学 国際日本研究センター(元留学生センター) 非常勤講師
 2017年 金沢大学 人間社会学域 国際学類 非常勤講師
 2024年 公立小松大学 国際交流センター 准教授

研究分野

第二言語学習 / 教授にかかわるビリーフ、地域日本語教育、専門日本語教育

所属学協会

日本語教育学会、海外日本語教育学会、専門日本語教育学会、日本語教育方法研究会、第二言語習得研究会

専門分野・研究分野

異なる背景を持つ人々のビリーフを日本語教育に生かす

人はどのように外国語を習得するのか、どのような学習方法が効果があるのかという問いに「ビリーフ」という概念を軸にアプローチしています。「ビリーフ(beliefs)」とは日本語では「信念」、「確信」や「思い込み」などという訳を当てられることありますが、学習の心理面を支える広い概念で、学習に大きな影響力を持つものです。例えば、「単語は何回も書かなければ覚えられない」や「外国語はその言葉が話されている国へ行けば上手になる」、「誤りはすぐに修正するのが効果的だ」というように行動と結びついた形で直接、学習に影響をもたらすものです。その「ビリーフ」は人が暮らす社会に大きく影響を受けています。社会の歴史的、文化的背景によって作り上げられ、そしてその時々々の理念や政策とせめぎ合いながら変化していくものであることがわかっています。

外国語学習の教室では、個々の学生、教師が持ち込むビリーフは多様で、文化背景の異なる留学生のいる教室は多様なビリーフに満ち溢れています。その多様性は時に考え方の違いで衝突し、問題となったりすることもあります。お互いの考えを共有することで、新たな文化を創造するきっかけにもなります。これまでの「ビリーフ研究」の場ではそのマイナス面に焦点をあてることが多く、「思い込み」というような訳が当てられることもありましたが、私はプラス面に注目し、違いを多様性と捉え、そのダイナミズムを学習に生かす研究を目指しています。

研究内容

多様な背景を持つ人が市民として
十全に力を発揮するための日本語教育

人々が国を越え、行き来するのが当たり前になった今、ことばの教育の場も、社会的に広がりを見せています。留学生も大学の中で学び、帰国していただくだけでない選択肢が広がり、異なる形での留学を繰り返したり、就職したりして、長く日本にとどまり、日本の社会の一員なる人も増えてきています。また、就労のために来日し、その後大学に入ったり、就労のために来日し、その家族がことばを学び、進学したりと、社会の変化、多様化に合わせ、大学の中の教育、日本語教育の視野も広げていく必要があります。多様な背景を持つ人々への、あるべき日本語教育、ことばの教育の在り方を考えています。

現在は英語で学位取得を目指す理工系留学生が日本社会で十全に力を発揮できるための日本語教育をテーマに研究を行っています。日本の大学では英語で学位を取得できる留学生を増やしていくこと、そして、修了後日本に就職する留学生を増やすことが目指されています。しかし、現時点では留学生と留学生を受け入れる企業との認識のずれが大きく、特に「日本語力」の問題は大きいことがわかっています。その問題を解決するためには、留学生たちが生まれ育った社会、大学の専門教育の場、大学修了後の就業の場、さらに生活をする場のそれぞれの「受け入れ側」の場をつなぐ「ことばの教育」が必要になっていきます。どこでどのような教育が可能か、認識の違いをどのように乗り越えるかを明らかにし、場をつなぐことばの教育モデルを構築し、そして、その先に多様な背景を持つ人々が市民として十全に生きる社会の実現を目指します。

多様な背景の人々と
受け入れ社会をつなぐ日本語教育

シーズ・地域連携テーマ例

- 他分野と連携する日本語教育
- 自ら選択できる日本語教育内容の提示

論文

- 「日本語学習者と日本語教師のビリーフを探るーインドネシアでのフォーカス・グループによるパイロット調査からー」 久保田美子・阿部新・星摩美・山田智久『海外日本語教育研究』14, pp.37-54, 2022.6
- 「日本語学習者のビリーフを探るーフォーカス・グループ調査から見えてくるものー」 久保田美子・星摩美『水谷信子記念日本語教育論集』第5号, pp.1-10, 2022.3
- 「韓国中等教育日本語教師の実践とビリーフ変化とその要因を中心にー」 星(佐々木) 摩美『日本語教育』165, pp.89-104, 2016.12
- 「マレーシア中等教育日本語教師の持つビリーフの要因に関する研究」 星摩美『人間社会環境研究』30, pp.91-108, 2015.9
- 「「地域日本語教育」にかかわる人々の活動を形作る意識とビリーフ」 星摩美『人間社会環境研究』29, pp.17-34, 2015.3

書籍等出版物

- Tinkatan4 BUKU AKTIVITI KOMUNIKASI LISAN BAHASA JEPUNN (マレーシア中等教育4年生向け日本語コミュニケーションアクティビティブック), Ang Chooi Kean, Hoshi (Sasaki) Mami, Telaga Biru SDN.BHD.2022.3
- Tinkatan4 Buku Latihan KENDIRI KANJI (マレーシア中等教育4年生向け漢字練習帳) Ang Chooi Kean, (edt.) Hoshi (Sasaki) Mami, Telaga Biru SDN.BHD.2022.3

講演・口頭発表等

- 福井大学公開講座 講師 「日本語の教え方スキルアップ 専門講座 語彙を広げ、身につける活動」 2018.12
- シンポジウム「グローバル化社会における外国語教育ダイバシティに外国語教師たちはどう向き合うのか」 金沢大学 先魁プロジェクトシンポジウム 国際学類サロンにおいて「外国語教師の持つビリーフと社会背景」のテーマで口頭発表2016.12

社会貢献活動

- 日本語教育学会 研修委員 (2022ー現在)
- 福井県国際交流協会 ボランティア養成講座講師 (2019ー現在)



マレーシア教材 1: マレーシアの先生方と研究成果をもとに協働作成した教材



マレーシア調査: マレーシアでの調査で



地域での日本語教育人材育成のための講座(福井県国際交流協会主催「日本語ボランティア入門講座」)